長岡工業高等専門学校	専攻科一般科目	開講年度	令和03年度 (2021年度)

学科到達目標

教育理念「人類の未来をきりひらく、感性ゆたかで実践力のある創造的技術者の育成
専攻科課程の教育目標と学習・教育到達目標
(A) 人類の福祉と地球環境に配慮できる人間性と倫理観を持った技術者の育成
(A1) 人文・社会科学に関する基礎的な事項について説明できること。
(A2) 工業技術が社会、自然環境や人間に及ぼしている影響について、例を示し説明できること。
(A3) 工業技術が地球環境に及ぼしている影響について、技術者倫理に照らして対応策を提案できること。
(B) すぐれたコミュニケーション能力と国際的視野をもち、多様な価値観を理解できる技術者の育成
(B1) 論理的な文章が書けること。
(B2) 日本語による科学技術の報告書の作成及び発表・討論ができること。
(B3) 異なる文化的背景を持つ多様な国際文化を理解できること。
(B4) 英語のコミュニケーション能力として基本的な読み取り、聞き取りができること。
(C) 早期技術者教育の特長を生かし、科学と技術の基礎を身につけた、健全で創造性ゆたかな技術者の育成
(C1) 工学の基礎となる数学、物理学、その他の自然科学の内容に関する発展的な問題が解けること。
(C2) 工学の基礎知識が、技術の分野でどのように応用されているかを説明できること。
(C3) 基礎工学の知識を理解し、それらを用いて基本的な問題が解けること。
(D) 工学の専門知識とものづくりのスキルをかね備え、情報技術を駆使できる技術者の育成。
(D1) 専門工学の知識を理解し、特定の専門分野ごとの代表的な問題を解けること。
(D2) 特定の専門分野の問題解決のために必要な装置やソフトウェアなどの工学的ツールを活用できること。
(D3) ものつくりのために実験・実習で身につけた技術・技能を活用できること。
(D4) 問題を解決するために必要な情報を収集し、解析するための情報技術を使いこなせること。
(E) 多面的思考力と計画力をもち、課題の解決と技術の開発を実行できる技術者の育成
(E1) 自然科学、基礎工学、専門工学の知識を総合的に利用し、工学的課題の解決方法を説明できること。
(E2) あらゆる制約（時間、設備、資金、人的・物的資源など）を考慮しながら、課題を解決するための計画を作成できること。
(E3) 異なる技術分野を理解し、自分の得意とする専門分野の知識とあわせて、状況に応じてチームでも技術的課題を解決できること。
(F) 地域の産業と社会に連携し、時代の要請に応えられる実践力のある技術者の育成
(F1) 企業等での実習体験をとおして、地域社会と産業の要求している内容を把握し整理できること。
(F2) 自分が身に付けた技術的な知識や能力が、地域社会と産業にどのように活用できるかを説明できること。
(G) 自発的学習能力を身につけ、継続的に自己啓発のできる技術者の育成
(G1) 工学の専門分野における技術的な動向について説明できること。
(G2) 工学的な問題を発見して、その解決に必要な情報や資料を収集し、整理できること。
(G3) 技術的な問題の解決のために、計画して、実施して、その活動を評価し、改善策を提案できること。

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数								担当教員	履修上の区分
						専1年				専2年					
						前		後		前		後			
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	選択	地域文化論	0001	学修単位	2			2						田中 聡	
一般	必修	科学哲学	0002	学修単位	2	2								鈴木 覚	
一般	選択	総合英語	0003	学修単位	2	4								遠藤 修宏	
一般	選択	日本言語文化	0004	学修単位	2			2						猪平 直人,堀口 真利子	
一般	選択	欧米文化論	0005	学修単位	2			2						土田 泰子	
一般	必修	地域産業と技術	0006	学修単位	2	2								田中 聡,陽田 修	
一般	選択	実用英語	0007	学修単位	2					2				占部 昌蔵	

長岡工業高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	地域文化論

科目基礎情報

科目番号	0001	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	専攻科一般科目	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	プリント		
担当教員	田中 聡		

到達目標

（科目コード：A0160，英語名：Regional Culture Theories）
この科目は長岡高専の教育目標の(A)と主体的に関わる．この科目の到達目標と，成績評価上の重み付け，各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下に示す．①地域文化研究の基本的な方法を理解する．30% (A1)②長岡の地域的な特徴を理解する．30% (A1)③地域の歴史や文化に関して調査・分析を行い，それを相互に説明（発表）する． 40% (A1)

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	地域文化研究の基本的な方法を詳細に理解する.	地域文化研究の基本的な方法を理解する.	地域文化研究の基本的な方法を概ね理解する.	左記に達しない.
評価項目2	地域の歴史や文化に関する調査・分析を詳細に行うことができる。	地域の歴史や文化に関する調査・分析を行うことができる。	地域の歴史や文化に関する調査・分析を概ね行うことができる。	左記に達しない.
	調査・分析した結果を詳細に発表できる.	調査・分析した結果を発表できる.	調査・分析した結果を概ね発表できる.	左記に達しない.

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	地方再生が叫ばれる中，伝統文化の振興を通じて地域再生を試みる取組が官民間で活発に行われ，一つの潮流となっている．この科目では，こうした動向を重視し，身近な地域の歴史や文化に根差したものの見方・考え方を涵養する． ○関連する科目：歴史学，地域産業と技術
授業の進め方・方法	長岡の歴史と文化を素材としながら，地域文化研究の基本的な方法や地域に根差したものの見方・考え方を学ぶ．受講者は，自ら長岡の歴史や文化について調査・分析を行い，プレゼンを行う． この授業は学修単位科目のため、事前・事後学習として、「週ごとの到達目標」欄にある課題等を事前・事後に予習・復習することが必要です。
注意点	特になし.

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	本授業の目標や方法などを理解する. 地域文化論を学ぶ意義に関する課題
		2週	新潟県の歴史と文化　1	身近な地域の歴史や文化について理解する. 新潟県の歴史と文化に関する課題１
		3週	新潟県の歴史と文化　2	身近な地域の歴史や文化について理解する. 新潟県の歴史と文化に関する課題２
		4週	新潟県の歴史と文化　3	身近な地域の歴史や文化について理解する. 新潟県の歴史と文化に関する課題３
		5週	新潟県の歴史と文化　4	身近な地域の歴史や文化について理解する. 新潟県の歴史と文化に関する課題４
		6週	新潟県の歴史と文化　5	身近な地域の歴史や文化について理解する. 新潟県の歴史と文化に関する課題５
		7週	地域文化研究の方法と実践　1	地域文化研究の基本的な方法を理解するとともに，資料の収集・分析を行う．収集した資料の整理・分析に関する課題１
		8週	地域文化研究の方法と実践　2	地域文化研究の基本的な方法を理解するとともに，資料の収集・分析を行う．収集した資料の整理・分析に関する課題２
	4thQ	9週	地域文化研究の方法と実践　3	地域文化研究の基本的な方法を理解するとともに，資料の収集・分析を行う．収集した資料の整理・分析に関する課題３
		10週	地域文化研究の方法と実践　4	地域文化研究の基本的な方法を理解するとともに，資料の収集・分析を行う．収集した資料の整理・分析に関する課題４
		11週	地域文化研究の方法と実践　5	地域文化研究の基本的な方法を理解するとともに，資料の収集・分析を行う．収集した資料の整理・分析に関する課題５
		12週	課題発表会準備　1	研究方法への理解や収集した資料に対する理解・分析を深める. 発表資料の作成に関する課題１
		13週	課題発表会準備　2	研究方法への理解や収集した資料に対する理解・分析を深める. 発表資料の作成に関する課題２
		14週	課題発表会準備　3	研究方法への理解や収集した資料に対する理解・分析を深める. 発表資料の作成に関する課題３

		15週	課題発表会	研究方法への理解や収集した資料に対する理解・分析を深める. 発表資料の作成に関する課題４
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	4	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	4	後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	4	後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	4	後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	4	後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	4	後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				複数の情報を整理・構造化できる。	4	後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	4	後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	提出物	合計
総合評価割合	0	20	20	30	0	30	100
基礎的能力	0	20	20	30	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

長岡工業高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	科学哲学

科目基礎情報

科目番号	0002	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	専攻科一般科目	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	教科書は使用しない/補助教材としてプリントを配布する		
担当教員	鈴木 覚		

到達目標

（科目コード：A0010，英語名：Philosophy of Science）（本科目は、第1学期、第2学期に週1回で実施する。）
この科目は長岡高専の教育目標の(A) と主体的に関わる。この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を、到達目標、評価の重み、学習・教育到達目標との関連の順で次に示す。①技術者倫理の基本事項について理解する。70%(A1)、②技術者倫理の諸問題について説明できる。20%(A2)、③将来世代に対する技術者の貢献を思い描くことができる。10%(A3)。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	技術者倫理の基本事項について詳細に理解する。	技術者倫理の基本事項について理解する。	技術者倫理の基本事項について概ね理解する。	左記に達していない。
評価項目2	技術者倫理の諸問題について詳細に説明できる。	技術者倫理の諸問題について説明できる。	技術者倫理の諸問題について概ね説明できる。	左記に達していない。
評価項目3	将来世代に対する技術者の貢献を詳細に思い描くことができる。	将来世代に対する技術者の貢献を思い描くことができる。	将来世代に対する技術者の貢献を概ね思い描くことができる。	左記に達していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	科学技術と倫理、環境倫理、企業倫理、専門職倫理など、技術者倫理とそれに関連する内容の主なものを、映像資料なども用いて学ぶ。また、事例研究についての発表も課する。 ○関連する科目：哲学B（前年度履修）、歴史学ⅡB（前年度履修）
授業の進め方・方法	適宜、授業内容に沿った映像資料等を用いる。また、適宜、小テストも行う。この授業は学修単位科目のため、事前・事後学習として「週ごとの到達目標」欄に示す課題などを実施する。
注意点	様々な問題に対し想像力を働かせ、当事者意識をもって積極的に臨んでもらいたい。また、技術と倫理に関する新聞やテレビのニュースにも、日々関心をもって接してもらいたい。なお、必ず全員に事例研究についての発表を行ってもらう。行わない者は原則として単位修得不可となる。

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	導入、科学技術の光と影（１）	科学技術の光と影について理解する。課題レポート。
		2週	科学技術の光と影（２）	科学技術の光と影について理解する。課題レポート。
		3週	基本的な倫理理論（１）	基本的な倫理理論について理解する。課題レポート。
		4週	基本的な倫理理論（２）	基本的な倫理理論について理解する。課題レポート。
		5週	技術者倫理とは	技術者倫理の基本について理解する。課題レポート。
		6週	技術者倫理規程	技術者倫理規程について理解する。課題レポート。
		7週	科学者と倫理（１）	科学者と倫理について理解する。課題レポート。
		8週	科学者と倫理（２）	科学者と倫理について理解する。課題レポート。
	2ndQ	9週	集団の心理学	集団の心理学について理解する。課題レポート。
		10週	企業倫理	企業倫理について理解する。課題レポート。
		11週	技術者と法	技術者と法について理解する。課題レポート。
		12週	発表（１）	技術者倫理に関わる事件・事故について説明できる。課題レポート。
		13週	発表（２）	技術者倫理に関わる事件・事故について説明できる。課題レポート。
		14週	環境倫理、ヒューマン・エラー	環境倫理、ヒューマン・エラーについて理解する。課題レポート。
		15週	研究倫理	研究倫理について理解する。課題レポート。
		16週	期末試験 17週：試験解説・発展授業	試験時間：50分

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	4	前5,前6,前11,前12,前13
				現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	4	前5,前6,前12,前13
				技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	4	前5,前6,前12,前13
				社会における技術者の役割と責任を説明できる。	4	前5,前6,前12,前13

				環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	4	前14
				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	4	前10
				技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	4	前5,前6,前11,前12,前13
				全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	4	前5,前14
				技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	4	前7,前8,前9,前12,前13
				科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	4	前1,前2,前5,前7,前8,前9,前12,前13
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	法令やルールを遵守した行動をとれる。	4	前5,前15
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	4	前1,前2,前5,前7,前8,前9,前14
				企業には社会的責任があることを認識している。	4	前1,前2,前10

評価割合

	試験	発表	課題レポート	小テスト	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	20	30	10	0	0	100
基礎的能力	40	20	30	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

長岡工業高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	総合英語

科目基礎情報

科目番号	0003	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	専攻科一般科目	対象学年	専1
開設期	1st-Q	週時間数	4
教科書/教材	公式TOEIC Listening & Reading 問題集 7		
担当教員	遠藤 修宏		

到達目標

（科目コード：A0120　英語名：Comprehensive English）この科目は長岡高専の教育目標の（E）と主体的にかかわる。各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を，到達目標，教科の重み，学習・教育目標との関連の順で次に示す．① 与えられた課題について読み取りや聞き取りができ、問題を正確に解くことができる知識・技能を修得する　② 与えられた課題について聞いた音を正確に書き取ることができる知識・技能を修得する　③ 与えられた課題について聞き取った音を正確に発音することができる

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	与えられた課題について読み取りや聞き取りができ、問題を正確に解くことができる知識・技能を修得している	与えられた課題について読み取りや聞き取りができ、問題を概ね正確に解くことができる知識・技能を修得している	与えられた課題について読み取りや聞き取りができ、問題を解くことができる知識・技能を修得している	左記に達していない
評価項目2	与えられた課題について聞いた音を正確に書き取ることができる知識・技能を修得している	与えられた課題について聞いた音を概ね正確に書き取ることができる知識・技能を修得している	与えられた課題について聞いた音を書き取ることができる知識・技能を修得している	左記に達していない
評価項目3	与えられた課題について聞き取った音を正確に発音することができる	与えられた課題について聞き取った音を概ね正確に発音することができる	与えられた課題について聞き取った音を発音することができる	左記に達していない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	英語によるリーディングやリスニングを行う上で必要とされる知識・技能（リキミング・スキャニング・ディクテーション ・シャドーイング)について学習する。
授業の進め方・方法	リーディングにおいては、実践演習の中で精読と速読を並行し、読解力を向上させつつ、速く読む活動を行う。 リスニングにおいては、実践演習の中でディクテーション (書き取り)とシャードイングを行い、リスニングの基礎力を高める活動を行う。 この授業は学修単位科目のため、事前・事後学習として、「週ごとの到達目標」欄にある課題等を事前・事後に予習・復習することが必要です。
注意点	TOEICで獲得できるスコアの向上を目的としているため、主体的・自主的な活動への参加が求められる。また，英語の発話に常に意欲的に取り組むことが要求される。

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	シラバス説明 Reading 精読理論 / Listening ディクテーション	左記を理解する. 精読の方法を理解する / ディクテーションを使った学習方法を理解する ディクテーションについての課題
		2週	Reading スキミング / スキャニング Listening 音の同化現象 / 音の脱落	スキミング, スキャニングを使った読み方を理解する 情報収集の方法とその際に気を付ける情報倫理について理解する. スキミング / スキャニングについての課題
		3週	品詞と文型 Part1：写真描写問題	英単語の品詞と英文の文型について理解する TOEIC Part1の問題の出題形式を理解する TOEIC Part1についての課題
		4週	Part2：写真描写問題 Part1：写真描写問題	TOEIC Part1の問題の出題形式を理解する TOEIC Part1についての課題
		5週	Part2：応答問題 Part3：会話問題	TOEIC Part2の問題の出題形式を理解する TOEIC Part3の問題の出題形式を理解する TOEIC Part2,Part3についての課題
		6週	Part4：説明文問題 Part5：短文穴埋め問題	TOEIC Part4の問題の出題形式を理解する TOEIC Part5の問題の出題形式を理解する TOEIC Part4,Part5についての課題
		7週	Part6：長文穴埋め問題 Part7：文章読解問題	TOEIC Part6の問題の出題形式を理解する TOEIC Part7の問題の出題形式を理解する TOEIC Part6,Part7についての課題
		8週	総合演習 前期末試験	TOEIC形式での全てのPartの解き方や対策を総復習する 試験時間：５０分

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	4	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	4	

				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	4	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	4	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	4	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	4	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	4	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	4	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	4	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	4	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	4	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	4	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	4	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	4	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	4	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	4	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	4	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	4	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	4	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	4	
	工学基礎	グローバリゼーション・異文化多文化理解	グローバリゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	4	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	4	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	4	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	4	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	4	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	4	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	4	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	4	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。	4	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	4	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	4	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	4	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	4	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	4	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	4	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	4	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	4	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	4	

				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	4	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	4	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	4	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	4	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	4	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	4	
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	4	
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	4	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	4	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	4	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	4	

評価割合

	試験	小テスト	提出物	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	30	10	0	0	100
基礎的能力	60	30	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

長岡工業高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	日本言語文化

科目基礎情報

科目番号	0004	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	専攻科一般科目	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	担当者が指示するテキスト・担当者によるプリント		
担当教員	猪平 直人,堀口 真利子		

到達目標

(科目コード　A0130　Japanese Language and Culture)
本科目は第４学期に実施する。授業計画の週は回と読み替えること。この科目は長岡高専の教育目標の（Ｂ）と主体的に関わる。この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け，各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を、到達目標、評価の重み、学習・教育目標との関連の順で以下に示す。①論理的な文章作成の能力と、明快な口頭発表の能力を身につける。40%(Ｂ1)、②日本的・伝統的な思考様式に基づく古典文芸作品の基本的な読解方法を身に付ける。30%(A1)、③現代文芸作品に提示される現代社会の問題や現代特有の人間心理を理解する。30%(Ａ1)

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	基礎的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
論理的な文章作成の能力と、明快な口頭発表の能力	論理的な文章を正確に書く能力と、明快でわかりやすい口頭発表の能力が身についている。	論理的な文章を正確に書く能力と、明快でわかりやすい口頭発表の能力を概ね身につけている。	論理的な文章を書く能力と、口頭発表の基本的な能力を身につけている。	左記に達していない。
日本的・伝統的な思考様式に基づく古典文芸作品の基本的な読解	古典文学の鑑賞を通じて、日本的・伝統的な思考様式を深く理解している。	古典文学の鑑賞を通じて、日本的・伝統的な思考様式を概ね理解している。	古典文学の鑑賞を通じて、日本的・伝統的な思考様式の基本的な知識を得ている。	左記に達していない。
現代文芸作品に提示される現代社会の問題や現代特有の人間心理を理解	現代文学の内容を的確に読み取る高度な読解力・鑑賞力を身につけている	現代文学の内容を的確に読み取る標準的な読解力・鑑賞力を身につけている	現代文学の内容を読み取る基本的な読解力・鑑賞力を身につけている	左記に達していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	現代文学作品の講読と、古典文学作品の講読を通じて、日本文芸全般に対する理解を深める。受講者の主体的な読解・鑑賞によって、人文学的な教養を深化させるとともに、口頭発表・レポート作成を通じて、自らの考えを明快かつ論理的に発信する力を養成する。オムニバス方式で開講（猪平７．５回、堀口７．５回。ガイダンスのみ２名で実施）。 〇関連する科目：国語・文学（いずれも準学士課程配当科目）
授業の進め方・方法	受講者による口頭発表を行い、参加者でその内容について討議する演習形式を取る。取り扱う作品については開講時に指示する。発表担当学生は、事前に口頭発表用の資料を作成し、提出する。この授業は学修単位科目のため、事前・事後学習として「週ごとの到達目標」欄に示す課題などを実施する。
注意点	使用テキストは、初回授業時に担当者が指示、もしくはプリントを配布する。作品は事前に各自通読し、必要に応じて国語辞典・古語辞典などの参考書を持参すること。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス・発表形式の確認と発表担当者の決定	扱う作品を指示し、発表担当者を決定する。 次回発表予定古典文芸作品の読解と考察の課題１
		2週	古典文芸作品演習⑴	作品の背景、作者等について基本的な事項を理解する。 次回発表予定古典文芸作品の読解と考察の課題２
		3週	古典文芸作品演習⑵	担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める。 次回発表予定古典文芸作品の読解と考察の課題３
		4週	古典文芸作品演習⑶	担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める。 次回発表予定古典文芸作品の読解と考察の課題４
		5週	古典文芸作品演習⑷	担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める。 次回発表予定古典文芸作品の読解と考察の課題５
		6週	古典文芸作品演習⑸	担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める。 次回発表予定古典文芸作品の読解と考察の課題６
		7週	古典文芸作品演習⑹	担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める。 次回発表予定古典文芸作品の読解と考察の課題７
		8週	古典文芸作品演習⑺	担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める。 古典文芸に関するレポート課題１
	4thQ	9週	近現代文芸作品演習⑴	発表担当者を決定する。作品の背景、作者について基本的な事項を理解する。次回発表予定近代文芸作品の読解と考察の課題１
		10週	近現代文芸作品演習⑵	作品の背景、作者について基本的な事項を理解する。 次回発表予定近代文芸作品の読解と考察の課題２
		11週	近現代文芸作品演習⑶	担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める 次回発表予定近代文芸作品の読解と考察の課題３

		12週	近現代文芸作品演習⑷	担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める 次回発表予定近代文芸作品の読解と考察の課題４
		13週	近現代文芸作品演習⑸	担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める 次回発表予定近代文芸作品の読解と考察の課題５
		14週	近現代文芸作品演習⑹	担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める 次回発表予定近代文芸作品の読解と考察の課題６
		15週	近現代文芸作品演習⑺	担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める 近代文芸に関するレポート課題２
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	4	後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	4	後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	4	後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

評価割合

	レポート	発表					合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	30	20	0	0	0	0	50
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	30	20	0	0	0	0	50

長岡工業高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	欧米文化論

科目基礎情報

科目番号	0005	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	専攻科一般科目	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	初回授業時にテキストを示す。適宜、課題資料を配付する。		
担当教員	土田 泰子		

到達目標

（科目コード：A0150, 英語名：Western Culture ）
この科目は長岡高専の教育目標の(B)と主体的に関わる.
この科目の到達目標と，成績評価上の重み付け，各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下の表に示す.
①アメリカ文学について，作品と文化的背景を批評的に分析する35%(B1)･(B3)･(B4)
②イギリス文学について，作品と文化的背景を批評的に分析する35%(B1)･(B3)･(B4)
③欧米文化に関して分析･考察したことについて発表する30%(B1)･(B3)･(B4)
本科目は第3学期・第4学期に実施する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安
アメリカ文学に関する検討	アメリカ文学について，作品と文化的背景を、独自の視点から批評的な分析を詳細にすることができる。	アメリカ文学について，作品と文化的背景を批評的に分析することができる。	アメリカ文学について，作品と文化的背景を批評的に分析することが概ねできる。	左記に達していない。
イギリス文学に関する検討	イギリス文学について，作品と文化的背景を、独自の視点から批評的な分析を詳細にすることができる。	イギリス文学について，作品と文化的背景を批評的に分析することができる。	イギリス文学について，作品と文化的背景を批評的に分析することが概ねできる。	左記に達していない。
欧米文化に関する考察	欧米文化に関して、独自の視点から分析･考察したことについて詳細に発表することができる。	欧米文化に関して分析･考察したことについて発表することができる。	欧米文化に関して分析･考察したことについて発表することが概ねできる。	左記に達していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	欧米の文学作品は，単に英語で書かれているというだけでなく，作品を通して文化や社会など多くの要素を含んでいる．この科目では欧米の文学作品を題材として，著者と作品の関係性や文化的背景について学ぶことで知識を深め，批評的に分析する視点を獲得する. ○関連する科目：　総合英語（前期履修），実用英語（次年度履修）
授業の進め方・方法	課題となる原書文献について事前に十分に内容を理解し，授業ではグループでの話し合い等により多面的な視点から文献を検討すること．議論に主体的に参加し，積極的に発言をすること．この科目は学修単位科目のため，事前・事後学習としてレポート課題などを実施します.
注意点	特になし.

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	概要説明 アメリカ文学に関する文献の紹介	課題となる原書文献について、批評的な視点から分析・発表を行う. 次回授業で取り扱う作品講読を課題とする.
		2週	アメリカ文学に関する文献講読と検討（１）	課題となる原書文献について、批評的な視点から分析・発表を行う. 次回授業で取り扱う作品講読を課題とする.
		3週	アメリカ文学に関する文献講読と検討（２）	課題となる原書文献について、批評的な視点から分析・発表を行う. 次回授業で取り扱う作品講読を課題とする.
		4週	アメリカ文学に関する文献講読と検討（３）	課題となる原書文献について、批評的な視点から分析・発表を行う. 次回授業で取り扱う作品講読を課題とする.
		5週	アメリカ文学に関する文献講読と検討（４）	課題となる原書文献について、批評的な視点から分析・発表を行う. 次回授業で行う発表準備を課題とする.
		6週	アメリカ文学に関する文献講読と検討（５）	課題となる原書文献について、批評的な視点から分析・発表を行う. 次回授業で行う発表準備を課題とする.
		7週	アメリカ文学の作家と作品、社会について発表（１）	アメリカ文学について、批評的な視点から分析・発表を行う. アメリカ文学に関するレポートを作成する.
		8週	アメリカ文学の作家と作品、社会について発表（２）	アメリカ文学について、批評的な視点から分析・発表を行う. 次回授業で取り扱う作品講読を課題とする.
	4thQ	9週	イギリス文学に関する文献講読と検討（１）	課題となる原書文献について、批評的な視点から分析・発表を行う. 次回授業で取り扱う作品講読を課題とする.
		10週	イギリス文学に関する文献講読と検討（２）	課題となる原書文献について、批評的な視点から分析・発表を行う. 次回授業で取り扱う作品講読を課題とする.

		11週	イギリス文学に関する文献講読と検討（３）	課題となる原書文献について、批評的な視点から分析・発表を行う. 次回授業で取り扱う作品講読を課題とする.
		12週	イギリス文学に関する文献講読と検討（４）	課題となる原書文献について、批評的な視点から分析・発表を行う. 次回授業で取り扱う作品講読を課題とする.
		13週	イギリス文学に関する文献講読と検討（５）	イギリス文学について、批評的な視点から分析・発表を行う. 次回授業で行う発表準備を課題とする.
		14週	イギリス文学の作家と作品、社会について発表（１）	イギリス文学について、批評的な視点から分析・発表を行う. イギリス文学に関するレポートを作成する.
		15週	イギリス文学の作家と作品、社会について発表（２）	イギリス文学について、批評的な視点から分析・発表を行う. イギリス文学に関する発表の振り返りを課題とする.
		16週	発展授業	授業の振り返りを行う.

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用能力の基礎固め	母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	4	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16

評価割合

	試験	レポート	発表	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	70	20	10	0	0	100
基礎的能力	0	70	10	0	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	10	10	0	0	20

長岡工業高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	地域産業と技術

科目基礎情報

科目番号	0006	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	専攻科一般科目	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	プリント等		
担当教員	田中 聡,陽田 修		

到達目標

（科目コード：A0020　英語名：Local Industries and Technology）この科目は長岡高専の教育目標の(F)と主体的に関わる。この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下に示す。①新潟県内の主要産業と技術の状況を理解する。50%（F2）②新潟県内の産業や技術について調査・分析を行い、発表する。50%（F2）

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	新潟県内の主要産業と技術の状況を詳細に理解する。	新潟県内の主要産業と技術の状況を理解する。	新潟県内の主要産業と技術の状況を概ね理解する	左記に達していない。
評価項目2	新潟県内の産業や技術について詳細に調査・分析を行い、発表できる。	新潟県内の産業や技術について調査・分析を行い、発表できる。	新潟県内の産業や技術について概ね調査・分析を行い、発表できる。	左記に達していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	地域の産業･経済に対する関心は、日本だけではなく世界的に高まってきている。地域経済なしに日本経済も世界経済も存在しえず、地域経済及びそれを支える地域産業と技術を調査・分析することの意義は大きい。この科目では、新潟県内の産業と技術の状況を理解するとともに、自ら調査・分析することを通して地域の産業・経済について理解を深める。この科目は、新潟県内の企業で技術管理、営業などの実務を担当していた教員がその経験を活かし、企業の事業運営手法等について、課題解決型のグループワークにより授業を行うものである。また、地域企業の取材をとおして、実務技術者及び経営者から技術管理、事業運営手法等について学ぶ実習形式の授業を行うものである。また、この科目は、2名の教員が複数教員担当方式（毎回の授業を複数の教員が同時に担当する科目）で行う。 ○ 関連する科目：歴史学、哲学、経済学（前年度履修）、地域文化論（後期履修）
授業の進め方・方法	地域産業と技術について、グループごとに新潟県内の企業を独自で調査・分析するとともに、企業を訪問、又はWeb会議を利用した取材を行う。調査・分析・取材の成果は、企業のPR原稿として作成し、これを発表する。この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポート課題などを実施する。 この授業は学修単位科目のため、事前・事後学習として、「週ごとの到達目標」欄にある課題等を事前・事後に予習・復習することが必要です。
注意点	

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス ・授業内容説明 ・チーム編成発表（暫定リーダー） ・取材企業発表	R2年度の特別対応について 地域産業と技術について学ぶことの意義を理解する。 新潟県の中小企業，中堅企業の現状に関する課題
		2週	・工程計画 ・情報収集① ・原稿レイアウト検討① （課題①：工程計画の報告）	企画を効率的に実施し成功するための組織とコミュニケーション手段（インフラ）を構築する。 プロジェクト工程表作成に関する課題
		3週	・情報収集② ・原稿レイアウト検討②	取材方針、原稿レイアウトをチームで決定するために、適切な情報収集、論理的な議論、合意形成ができる。対象企業の情報収集に関する課題１
		4週	・原稿レイアウト検討③ ・事前取材方法の検討 （課題②：事前取材方法の報告）	取材方針、原稿レイアウトをチームで決定するために、適切な情報収集、論理的な議論、合意形成ができる。対象企業の情報収集に関する課題2
		5週	・取材方法の連絡・調整 （企業の本企画担当者へ）	取材方針、原稿レイアウトをチームで決定するために、適切な情報収集、論理的な議論、合意形成ができる。対象企業の情報収集に関する課題3
		6週	・事前取材（企画担当者との打合せ） （課題③：事前取材の経過と本番の計画）	取材先の条件を確認し、取材の実施体制を説明し取材先の合意を得ることができる。事前取材報告書に関する課題
		7週	・事前取材に基づく取材本番の検討① ・必要素材の検討	企業担当者に事前取材し、コンセプトの説明と必要な情報を論理的に説明し、計画と整合することができる。企業訪問・取材計画書作成に関する課題1
		8週	・事前取材に基づく取材本番の検討② ・必要素材の検討	事前取材で得た情報を基に、コンセプトや取材方針の修正・検討ができる。 企業訪問・取材計画書作成に関する課題2
	2ndQ	9週	・取材本番	企業担当者に取材し、新潟県内の産業と技術の現状と課題について理解する。 企業訪問・取材記録柵に関する課題
		10週	・原稿作成	取材成果の整理を通して、地域産業と技術、企業が抱える課題について理解を深める。成果を基にＰＲ原稿を作成するために、論理的な議論、合意形成ができる。 原稿作成に関する課題1

		11週	・原稿作成	取材成果の整理を通して、地域産業と技術、企業が抱える課題について理解を深める。成果を基にＰＲ原稿を作成するために、論理的な議論、合意形成ができる。 原稿作成に関する課題2
		12週	・原稿作成	取材成果の整理を通して、地域産業と技術、企業が抱える課題について理解を深める。成果を基にＰＲ原稿を作成するために、論理的な議論、合意形成ができる。 原稿作成に関する課題3
		13週	・クライアントへ確認・評価	取材して得た情報から、PR原稿のコンセプト、構成を論理的に説明し、クライアントの評価を得ることができる。修正原稿作成に関する課題
		14週	・クライアントへ確認・評価・修正 （課題④：成果提出）	クライアントの評価を理解し、コンセプトとの整合から修正を加えることができる。 成果物の作成に関する課題
		15週	・相互評価 （課題⑤：相互評価報告）	グループごとの成果発表を通して、地域産業と技術、企業が抱える課題について理解を深める。発表・報告資料作成に関する課題
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	4	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者の意見を聞き合意形成することができる。	4	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	4	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	4	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	4	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	4	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	4	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	4	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	4	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	4	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	4	
				自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。	4	

評価割合

	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	提出物	合計
総合評価割合	0	40	40	0	0	20	100
基礎的能力	0	40	40	0	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	20	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

長岡工業高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	実用英語

科目基礎情報

科目番号	0007	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	専攻科一般科目	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	Our Society, Our Diversity, Our Movies (金星堂)		
担当教員	占部 昌蔵		

到達目標

（科目コード：　A0110　Practical English）(本科目は第１学期に実施する。週２回授業があるので注意する。下記授業計画の週は回に読み替える。)
この科目は長岡高専の教育目標の(Ｂ)と主体的に関わる。
この科目の到達目標と，各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下の表に示す。
科目の到達目標評価の重み学習・教育到達目標との関連
①単語や熟語の意味を理解し、使用できる。25%(b3)
②文法や構文を理解し、使用できる。25%(b3)
③読んだり聞いたりしたことについて、理解したことや感じたことを英語で表現できる。25%(b3)
④意味のまとまりを意識しながら英文を音読したり、内容を理解することができる。25%(b3)

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	到達レベルの目安(可)	未到達レベル
語彙力	単語や熟語の意味を理解し、使用できる。	単語や熟語の意味を理解し、概ね使用できる。	単語や熟語の意味を理解できる。	先に達しない
文法や構文	文法や構文を理解し、使用できる。	文法や構文を理解し、概ね使用できる。	文法や構文を理解できる。	左記に達しない
読解・表現力	読んだり聞いたりしたことについて、理解したことや感じたことを英語で表現できる。	読んだり聞いたりしたことについて、理解したことや感じたことを英語で概ね表現できる。	読んだり聞いたりしたことについて、理解したことや感じたことを英語で少しは表現出来る。	左記に達しない
応用力	意味のまとまりを意識しながら英文を音読したり、内容を理解することができる。	意味のまとまりを意識しながら英文を音読したり、内容を理解することが概ねできる。	意味のまとまりを意識しながら英文を音読したり、内容を少しは理解することができる。	左記に達しない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	本授業では、 テキスト（社会問題を扱った映画について）を用いながら英語を学習し、英語ライティング課題を通して思考力も養っていきます。それぞれの学習ユニットは世界の今日的トピックに焦点をあてて構成されています。本学習では、①世界（含日本）の社会的問題等について考えながら自分の意見を持ち表明できること、②英語４技能を総合的に伸ばすこと、 以上の２つを目的としています。
授業の進め方・方法	教材及び関連する資料を活用し、4技能（読む・聞く・話す・書く）を総合的に学習するコースです。「読む」と「聞く」に関しては、主に教材を用い、語彙、パラグラフリーディング等を学習します。「書く」に関しては、テキスト内の問いと英語ライティング課題遂行を通して安定した力を養成します。「話す」に関しては、プレゼン準備を通して個々の実力を伸ばします。
注意点	1)授業中にオンラインを活用したListening & Writingのタスクを課すことがあります。各自ノートPCやタブレット等を持参してください。 2)本科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポート課題（英語による）が数回あります。プレゼン（英語発表）が1回あります。

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	シラバス内容説明と課題、評価等の説明を行う	左記の内容を理解する
		2週	Unit 8: Foreign language and self-confidence	左記の内容を理解する
		3週	Unit 9: Frame of mind	左記の内容を理解する
		4週	Short review : Unit 8 & 9	左記の内容を理解する 英語ライティング課題
		5週	Unit 3: Prejudice and egocentrism	左記の内容を理解する
		6週	Unit 1: United by desperation - white trash	左記の内容を理解する
		7週	Short review : Unit 1 & 3	左記の内容を理解する 英語ライティング課題
		8週	Review : Unit 1, 3, 8 & 9	左記の内容を理解する
	2ndQ	9週	Unit 6: Be an Intercultural interpreter	左記の内容を理解する
		10週	Unit 5: Choosing a home	左記の内容を理解する
		11週	Short review : Unit 5 & 6	左記の内容を理解する 英語ライティング課題
		12週	Review: Learning immigrants and thinking diversity in a country	左記の内容を理解する
		13週	Choosing a theme for a presentation	左記の内容を理解する 振り返り及びテーマ決定
		14週	プレゼン準備	プレゼン資料作成及び提出

		15週	プレゼン（発表会）	左記の内容（他者の考え、テーマ）を理解する 伝える力の学び
		16週	定期試験なしのため実施せず 17週目：発展授業	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	4	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	4	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	4	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	4	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	4	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	4	

評価割合

	レポート	プレゼン	相互評価	態度・出欠	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	0	20	0	0	100
基礎的能力	60	20	0	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0